

# 春日社古墳出土・革盾

## 仙台・春日社古墳出土の漆塗革盾保存処理

# 文化財の保存と複製

## ニューズレター

VOL. 16 / March

2010年3月

### 有力者の証・革盾の保存処理完成

革盾とは、刺繍を施した牛革を木製の枠に張付け、漆を塗って仕上げた古代の防具です。一般に畿内と地方の首長クラスの古墳から出土するため、ヤマト政権が同盟関係を深めるために有力者に配布したものと考えられています。このたびは仙台市の春日社古墳（五世紀後半）より出土した漆塗革盾の保存処理が無事終了しました。本革盾は東北地方で初めての出土であり、古墳時代中期におけるヤマト政権が及ぼす力の北限を示す非常に貴重な資料です。

日本の土壌の性質上、革は遺存しにくい。ほとんど出土することがありません。今回も革盾とはいうものの、本体である革は木枠もろとも腐朽して残っていませんでした。



革盾・保存処理完成(展示ケース入)



顕微鏡観察後の復元(案)

しかしながら表面に塗られた漆膜と顔料が、かろうじて土中にその痕跡を留めていました。上端幅六〇センチ、下端幅七二センチ、長さ二二〇センチの台形状をしています。今にも流出分散してしまいそうな非常に脆弱な状態でしたが、明瞭な刺繍痕と木製枠の圧痕などが観察できました。これは革盾の出土例の中では極めて良好な出土状態だということの意味しています。

革盾を保存するにはまず発掘現場から屋内に移送しなければなりません。表面を養生し、土壌ごと発泡ウレタンで梱包して切取りました。このときの重量は2.4トンでした。屋内で天地を反転させ、底面より発掘調査しながら厚みが約一センチになるまで土を除去し、FRPで裏打ちをして再反転させました。慎重に表面の養生材を外した後、顕微鏡を用いて細部を観察しながら革盾の構造を調査しました。結果として復元想定図のイメージが大きく変わりました。

仙台・地底の森ミュージアムで公開中 <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/event/exhibi1001/index.html>

### 製作所感

出土例・保存処理成功例がほとんどない貴重資料なので、とても神経を使いました。非常に脆弱なため、液中で顔料や漆膜が流出してしまわないように養生するのが至難でした。無事完了しほっとしています。

—京都科学・平井孝憲—

お問合せは、造形システム部  
電話：075-605-2540  
担当：小林泰弘まで



出土状況



保存処理液からの引き上げ

革盾は出土例が少なく、保存処理が成功した例もほとんどないので、大変有意義なデータになりました。

次に細筆で丁寧に表面の汚れを洗浄し、保存処理液に含浸するための養生を慎重に施しました。処理液はPEG（ポリエチレングリコール）を使用しました。処理液を加熱しながら約五ヶ月間かけて土中の水分をPEGに置換し強化処置を終えました。固化・乾燥後、支持台を作製し完成としました。このとき重量は六〇キロになっていました。保存処理後も刺繍で区画された文様がはっきりと確認できます。

現在地底の森ミュージアムで展示されています。ぜひご覧ください。

■第五十一回文化財展 三月二十二日まで  
「よみがえる王の証」革盾と春日社古墳」

